

共生・協働の 地域社会づくり

NPO法人じゃっど
TEL&FAX 0996(27)0193

ラオスへの国際支援を続けて今年で20年
これからも、子どもたちが笑顔になれるような活動を続けたい

「ラオスという国はどこの国？」と聞かれ、皆さんはどのような答えやイメージを思い浮かべますか。正式な国名は「ラオス人民民主共和国」。インドシナ半島に位置し、タイやベトナムなど5カ国に囲まれており、日本の本州ほどの面積(約24万km²)に約626万人が暮らしています。(そのほかのラオスの情報は、日本外務省やラオス政府観光局のホームページなどでも紹介しています。)

滞在する日本人は、平成22年10月現在でわずか546人というこの国で、薩摩川内市に事務所をおく「NPO法人じゃっど」がさまざまな活動をしていることをご存じでしょうか。

鹿児島弁で「そつだ」「賛成」という意味をもつ「じゃっど」。この団体の活動は、現在の事務局長で団体設立者の帖佐理子さんが、夫の赴任先だったラオスを訪れ、現地の小学校に足を運んだことから始まります。そこには、壁のない教室で、学用品もほとんどないというような環境の中、一生懸命勉強している子どもたちの姿がありました。

「この子どもたちのために何かできないか」という思いから、平成4年の小学校の壁補修を手始めに、資材を提供し現地の方々が建設するという形で、学校建設支援、机いす、学用品などの提供を行ってきました。



NPO法人じゃっどが国際支援活動を行っているラオス

現在の活動の中心となっている学校保健分野への支援では、「生水はそのまま使わない、手洗いをして手を清潔に保つ」これだけでも多くの病気を防げるということを広めるため、ラオス政府や現地の医師と協働し、紙芝居や絵本、ラオスの有名な女性歌手が歌う「手洗いソング」のCDなどを用いた運動や、学校の先生を対象にした健康教育セミナーを開催しています。

また、「ラオス・スタディーツアー」として、薩摩川内市内の大学生らがラオスを訪問し、現地での活動を体験するツアーや、県内の小学校などで団体の活動を紹介する講話なども行っています。今年も11月下旬からツアーの開催を予定しており、現在参加者を募集中です。

「これまで、公益財団法人西日本国際財団から『アジア貢献賞』を頂くなど団体の活動が少しずつ認められてきました。このツアーなどを通して、鹿児島島のNPO団体が発展途上国で頑張っていることを広く知ってもらいたいですね」と語るのは、古田宣稔理事長。自身も青年海外協力隊の隊員として、アフリカなど多くの国を訪れている古田さんは、「自分の経験からも、若いうちに発展途上国を訪問するという体験をしてほしい。そうすることで、それまでとは



絵本を使って、現地の子どもたちに手洗いの大切さを伝える活動を実施



代表者からひとこと
ふるとりのし
理事長の古田宣稔さん
将来の目標は、支援しているラオスから「今までありがとう、もう大丈夫です」と言われること。「発展的撤退」です。

違った感性が身につくと思えます」と、たくさんの若い方の参加を期待しています。

団体としては、平成17年にNPO法人の認証を受け、今年2月には、国税庁長官から、県内では2番目となる「認定NPO法人」として認定されました。

今年7月からは、現地にも連絡事務所を開設。今後は、ラオス国内で活動を行う団体としてラオス政府から正式に認められることを目標にしています。

「じゃっど」では、これからも、ラオスの子どもたちが一人でも多く笑顔になれるよう支援活動を続けていきます。



ツアー参加者と子どもたち。「じゃっど」のシンボル旗には、ラオス語で現地活動名「小さなお医者さんプロジェクト」と記されている

共生・協働の地域社会づくりや NPO法人に関するお問い合わせ先
◎共生・協働推進課(県庁9階) TEL 099(286)2241
◎共生・協働センター(かごしま県民交流センター内) TEL 099(221)6613
関連情報は、県ホームページの「共生・協働(NPO・ボランティア)」にも掲載しています。